

## 専任講師 松浦 康之

### 専門分野

生体医工学  
人間工学  
仮想現実  
ヒューマンインタフェース  
データサイエンス

### 学位・資格

博士（生体情報）

研究者情報  
(Research Map)



### 専門分野と社会との関わり

心電図や胃電図、重心動揺などの生体信号を用いた生体評価や仮想現実（VR）・拡張現実（AR）などの3D映像視聴時の生体影響評価に関する研究に從事しております。

生体信号を用いた生体評価では、既存手法による分析だけではなく、人工知能（AI）を用いたデータ分析も行っております。その結果、既存の解析方法では得られなかった二値分離など新たな知見も得られています。また、3D映像視聴時の生体影響評価では、3D映像のユニバーサルデザインを目指して、3D映像酔いの簡易検出・可視化および、その社会的実装のフィジビリティの検討を進めています。



### 最近の活動紹介

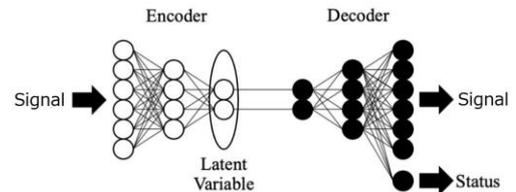
#### 教育活動／研究活動

#### データ駆動科学教育研究センター（DSセンター）

DSセンターの専任講師として、国際的な視野に基づいたデータサイエンス教育（グローバルデータサイエンスコース（GDSC））の企画などを主に担当しております。

国際化が進む現代社会の中で問題解決を図るには、異文化理解を含む柔軟な発想と、データ分析能力が必要です。そのため、DSセンターでは、GDSCを設置し、これらを身につけた人材の育成を行っております。

異文化理解では、データ分析にも必要な広い視野と多面的な視点を育てることを目的として、異文化理解に関する科目の設置や、海外研修、オンライン交流の実施を進めております。



#### 地域貢献活動

#### 企業との共同研究

香料の客観的評価を行うために、香料メーカーと連携して、心電図や胃電図などの生体信号を用いた評価手法の開発を行っています。香料は濃度によって香調が変化することが知られており、嗅覚刺激時の生理対応にも違いがあります。これらの違いや変化の検出に向け、共同研究を行っています。

また、これまでは、働く人のストレスの状態推定やストレス軽減のために、従業員支援制度を行う企業などと連携して、AIやIoTセンシング情報を利用した労働者の心身状態推定システムの開発なども行っております。

